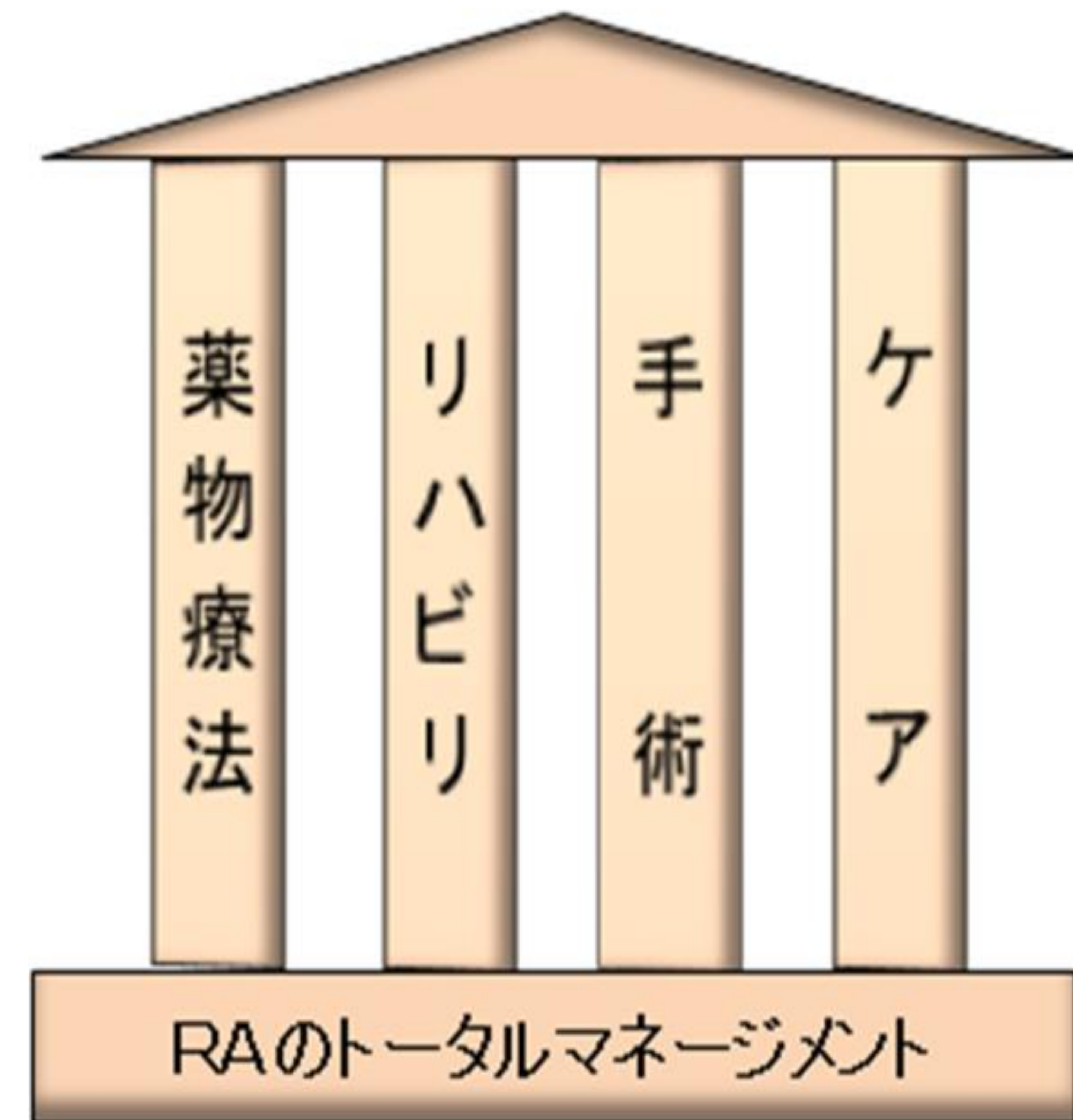


連携医療で治療する 関節リウマチ

治療の劇的進歩

関節リウマチ治療は「薬物療法」、「手術療法」、「リハビリテーション」、「ケア」の4本柱で成り立ちます。そのすべての領域で関節リウマチ治療は劇的に進歩しました。当科ではそれらに対応し最善の治療を提供することを目指しています。





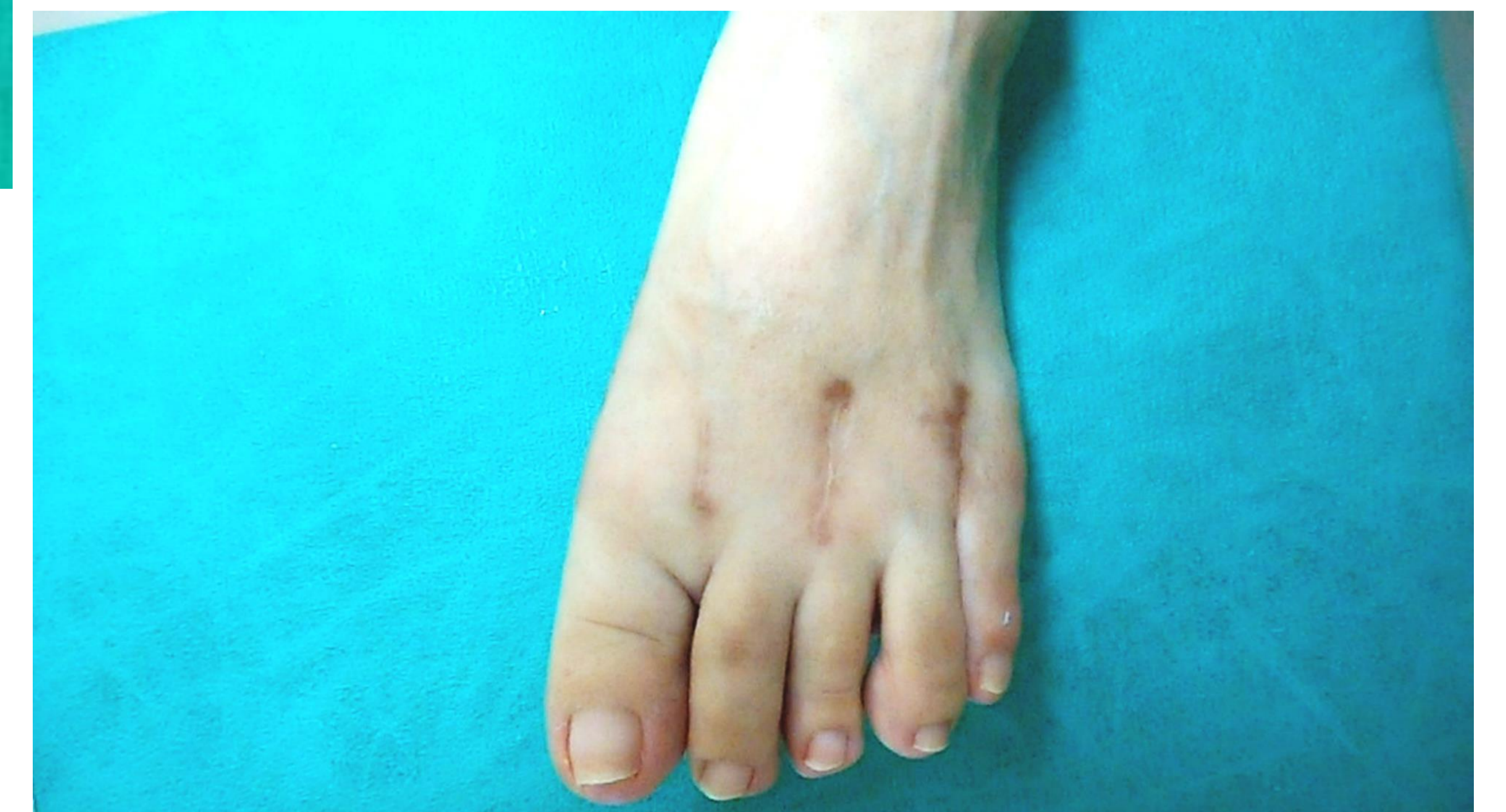
薬物療法



リウマチ治療の進歩の代名詞は「よく効く薬の開発」と「治療戦略の確立」です。当院では、ほぼすべての薬剤を取り揃え、安全性を重視して個々の患者さんに応じた薬物を使用します。治療の進歩により、多くの方が変形をきたすことなく日常生活を送られています。

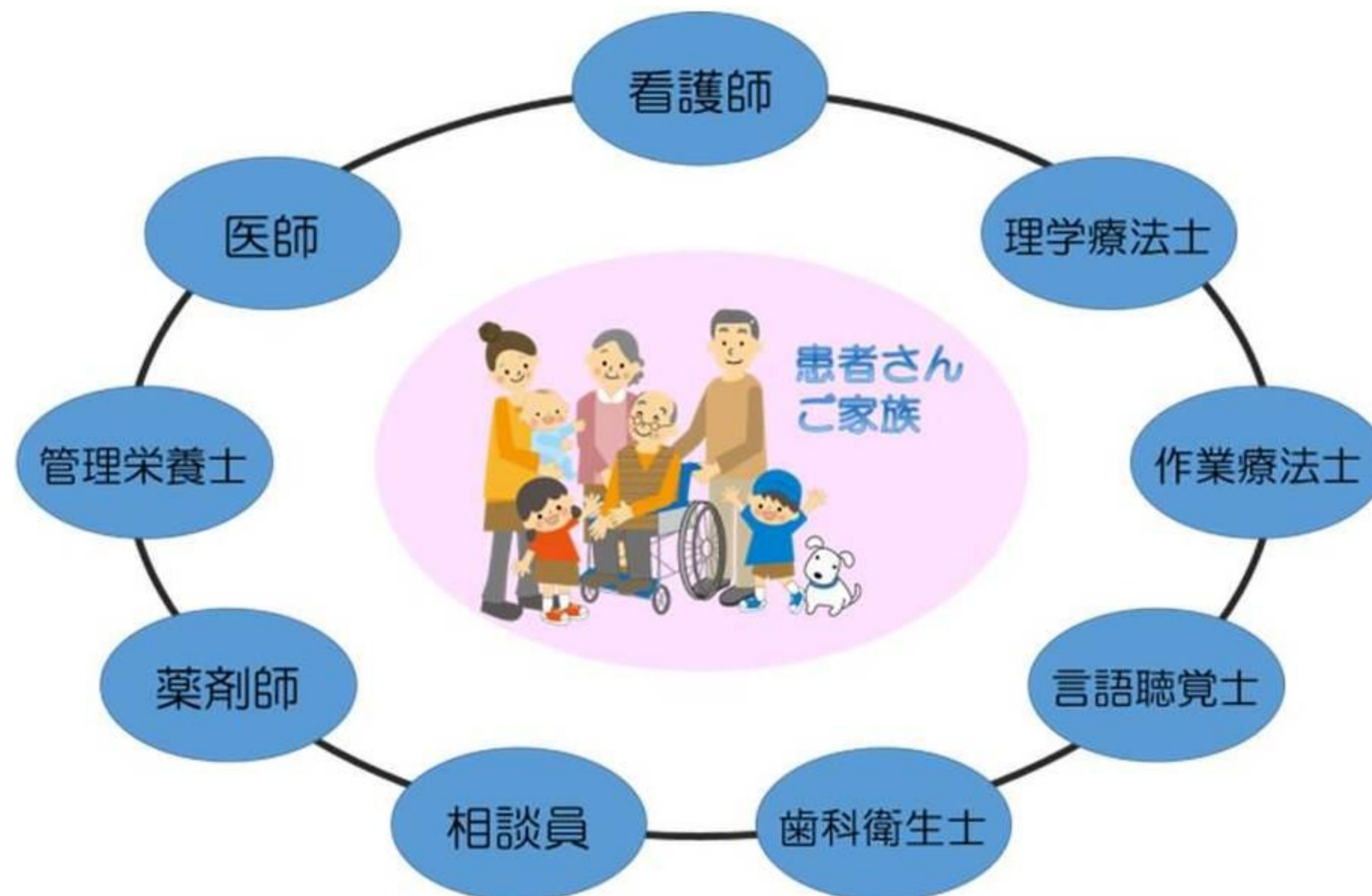
手術療法

万一、関節破壊が生じ、日常生活にも支障が出てしまった場合は、痛みをとり、機能を回復させるための手術療法を行えるよう患者さんと相談します。



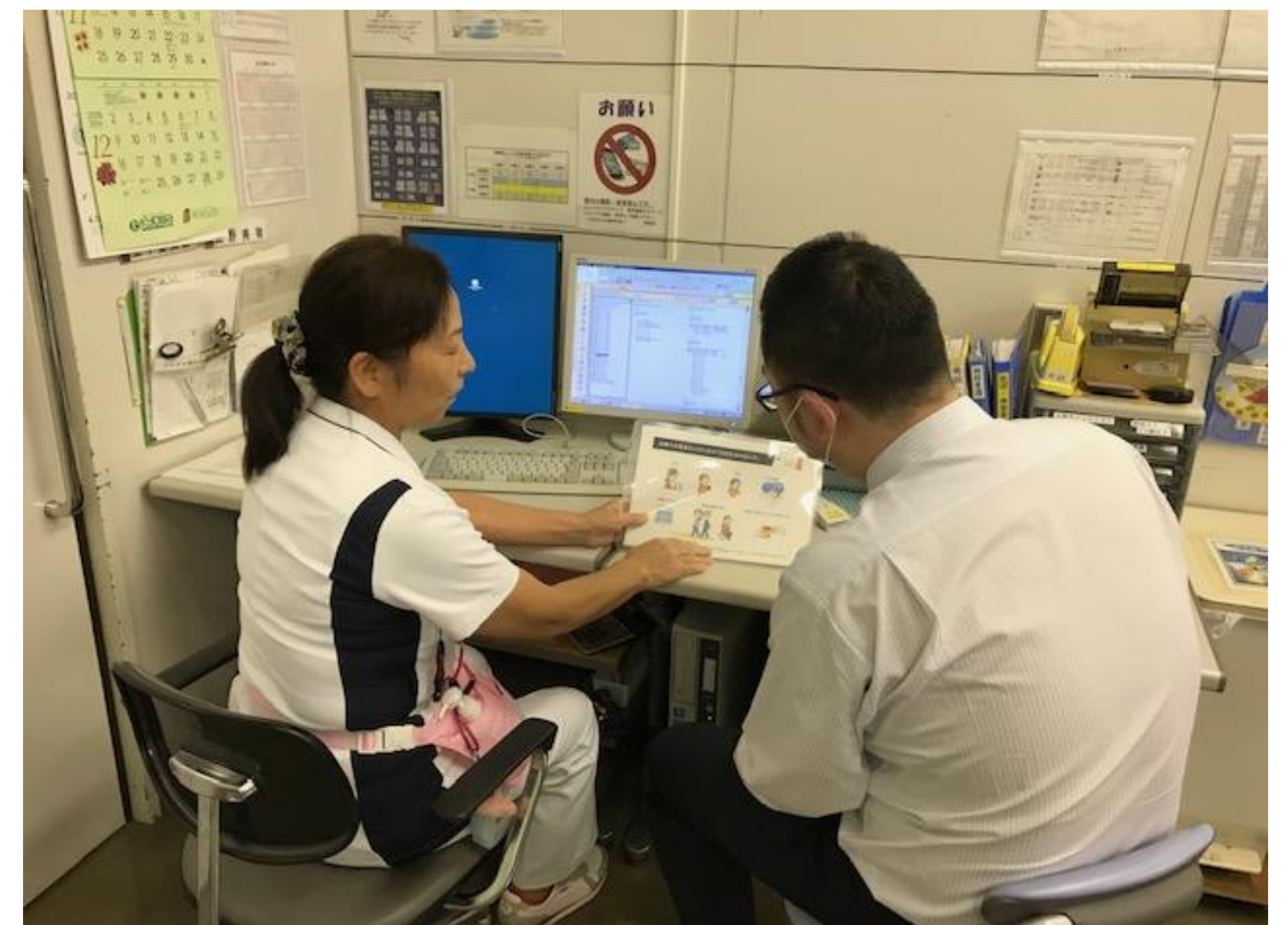
多職種連携医療

主に医師が受け持つのは、薬物療法と手術療法の部分です。リハビリやケアの領域では、リハビリスタッフや看護師をはじめとした多職種が連携して患者さんの治療にあたっています。



看護師外来 では・・・

- 関節リウマチ患者さんへの初期教育
- 生物学的製剤導入前の説明
- 自己注射指導
- 身体的、精神的、社会的不安の解消
- 生物学的製剤による治療患者さんに対する診察前の問診



十分な睡眠



手洗い



うがい



マスク



適度な運動



関節に負担を
かけない工夫

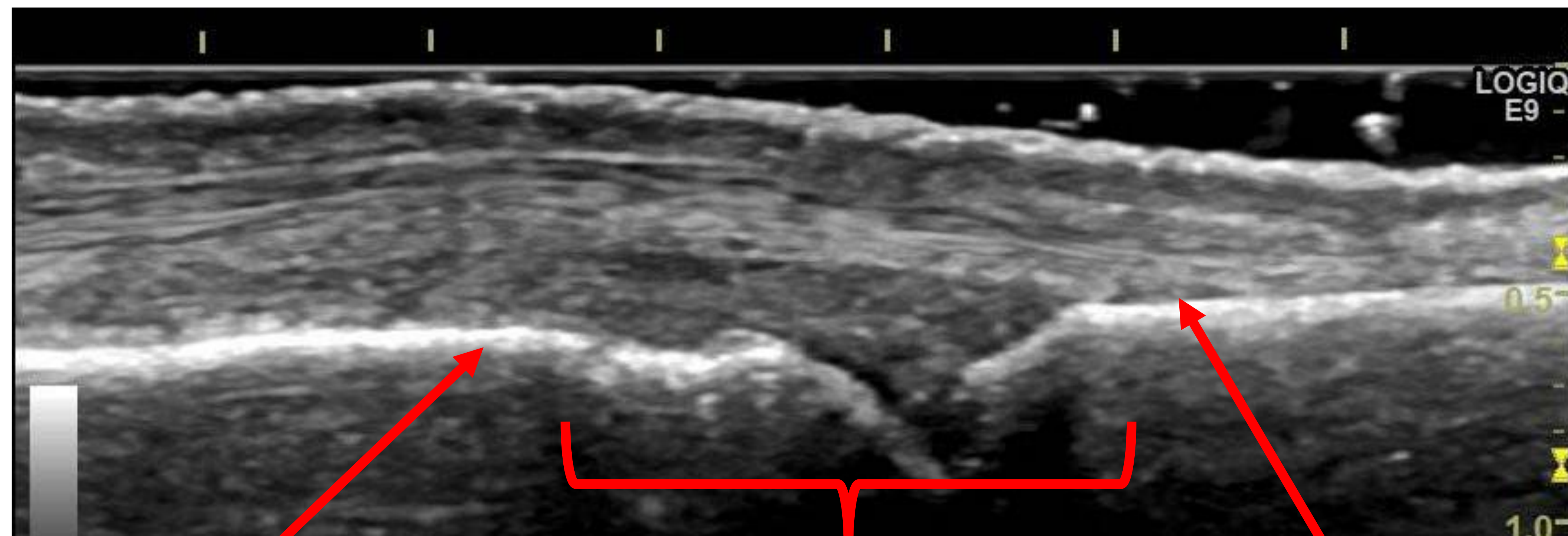


リウマチ診療において関節エコーは非常に重要なツールで当院では力をいれています！！

関節エコーとは??

- ①エコー検査の特徴は、**非侵襲的（無害）**で**低コスト**であり経過観察中に簡単に検査を行うことが可能な検査です！
- ②**滑膜肥厚の有無**と**異常血流の有無**を評価し、診療で疾患活動性や治療の効果判定などに活用されています。

正常例のエコー像

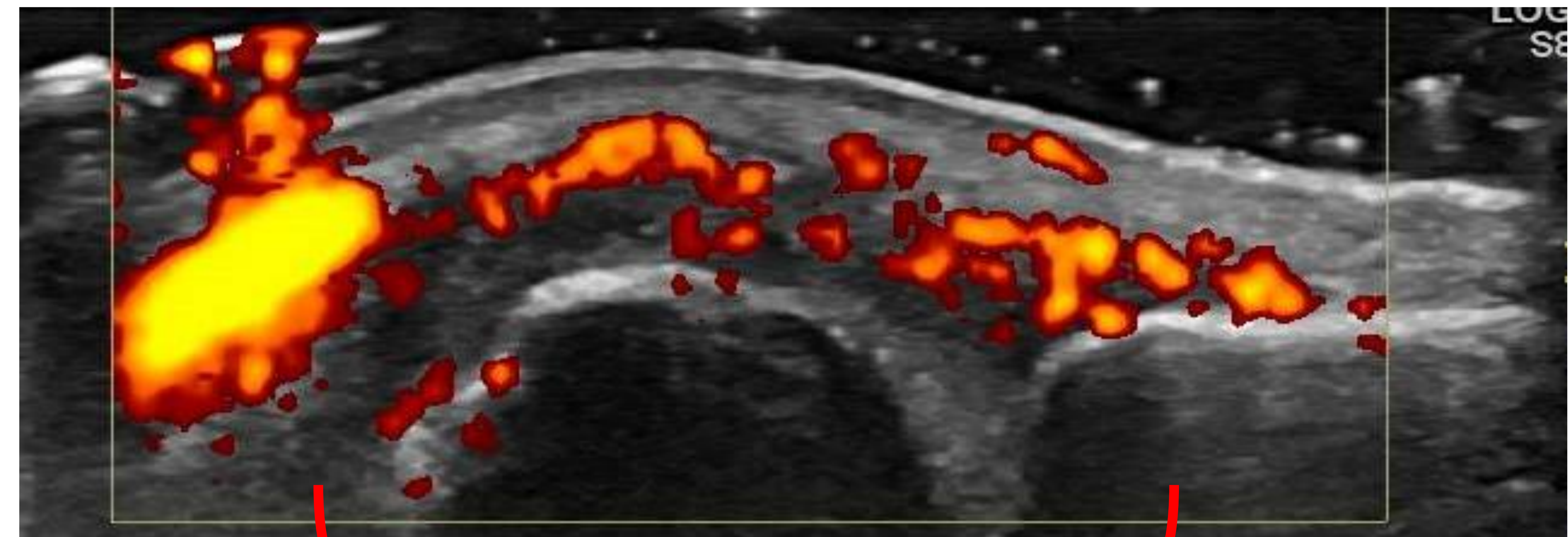


骨

関節

腱

異常例のエコー像

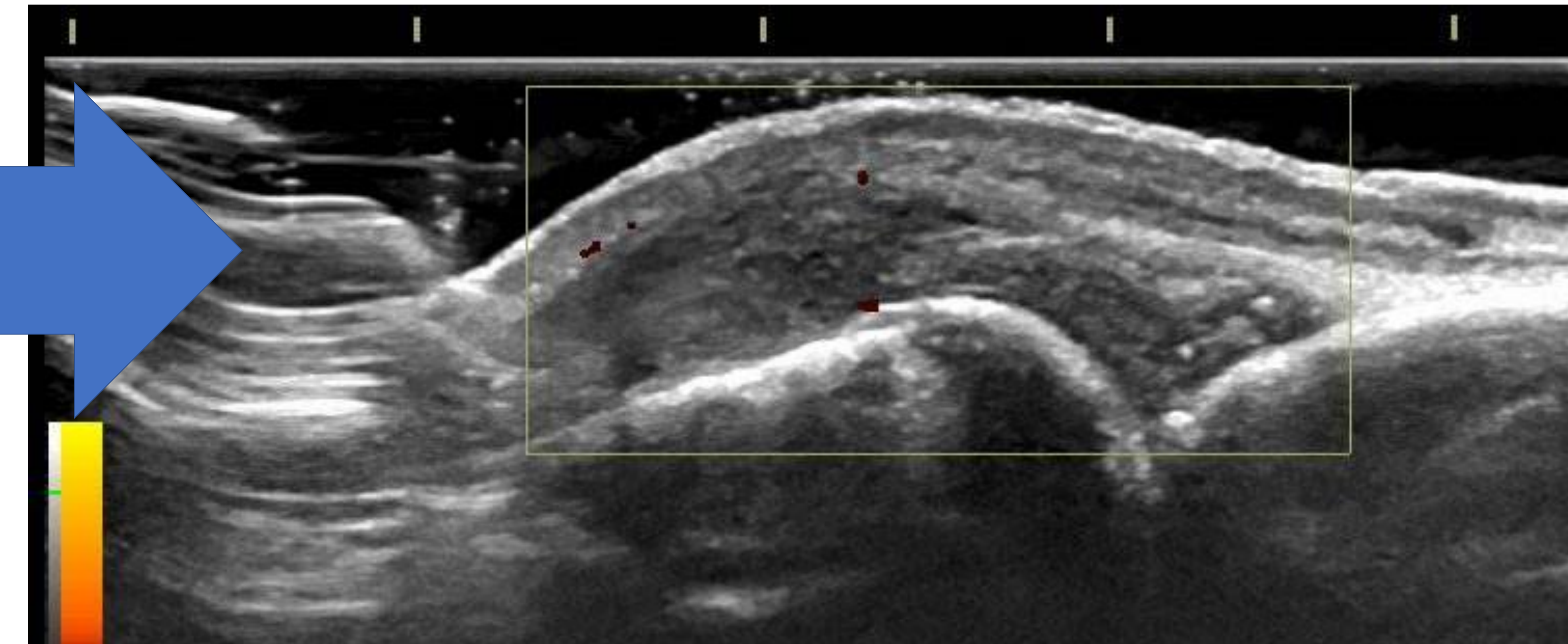
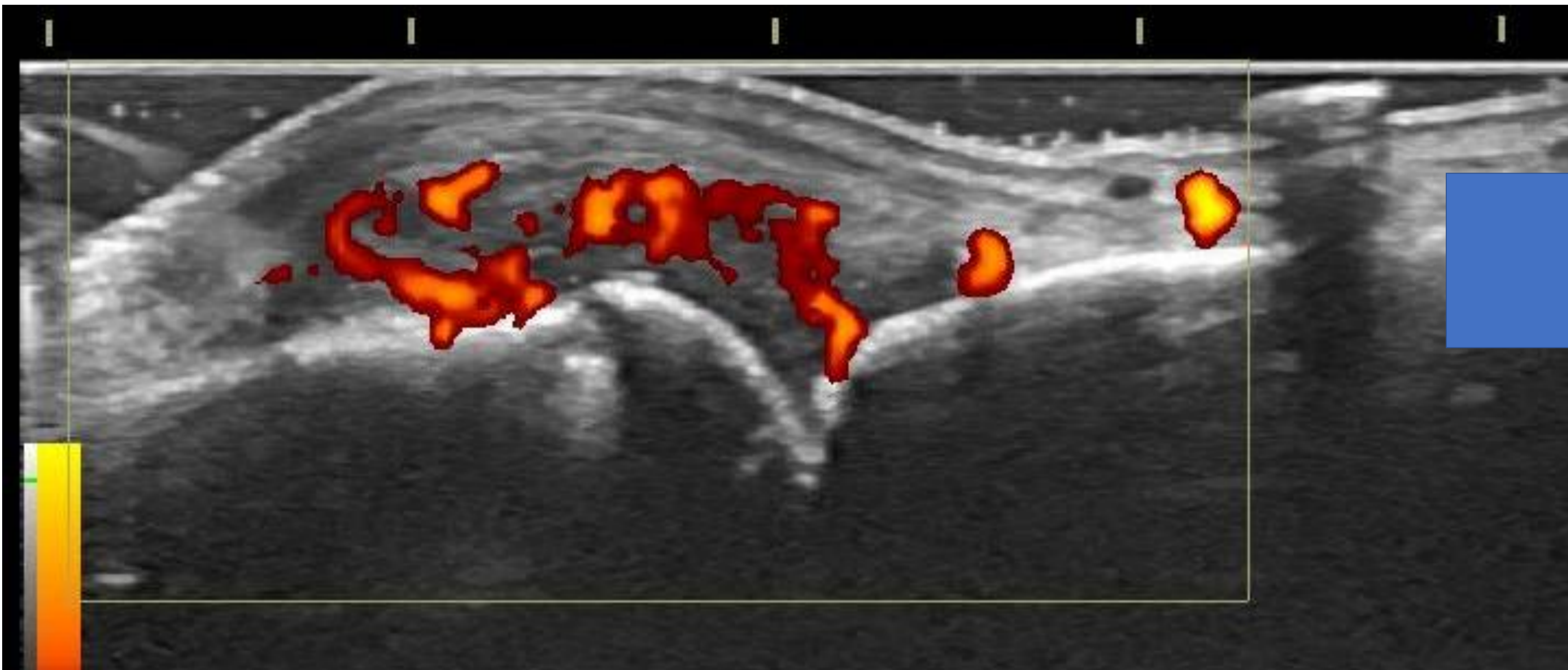


肥厚した滑膜 + 異常血流著明

疾患活動性評価と治療効果判定

初診時

治療後（3ヶ月）



滑膜肥厚あり + 異常血流あり

滑膜肥厚あり + 異常血流なし

治療後、滑膜内に異常血流が残存した関節は、構造破壊が進展するリスクがあるといわれています。

エコー検査は活動性のモニタリングに非常に有用です！



当科では病院の理念である

「医療の原点は思いやり」

をモットーに、患者さんの細かな訴えを傾聴し、
リウマチ疾患の総合的な克服を目指して
チームで診療にあたっています。

よろしくお願ひ申し上げます。

スタッフ一同